

# 御船版「熊本の学び」 SMARTな授業実践

- S シンプル** 学習内容を焦点化する  
わかりやすい指示や説明・発問（簡潔に、視覚で捉えやすく）をする
- M 目的・目標** 単元のゴールの姿を設定する  
「何が分ればよいのか」「何が出来ればよいのか」を明確にして『めあて』を示す
- A アクティブ** 児童生徒が活動する時間を確保する  
教師がしゃべりすぎない
- R 練習** 定着を図る時間を確保したり、小テストを実施したりする
- T たしかめ** 共通のノートである板書をもとに学習のまとめをする  
児童生徒が学びを振り返る「問い」をする



## S 学習内容の焦点化

本時の目標を達成するために、「教えること」と「考えさせること」を整理して、活動の時間確保をしよう！

- ※ 指示や説明・発問をシンプルにするためには、学習内容の焦点化が必要です。「あれも」「これも」と欲張らずに、児童生徒全員が活動し、達成感や疑問・気づきが生まれるために「考える」活動を精選しましょう。

## S 簡潔で視覚で捉えやすい指示や説明・発問

指示や説明等を、明瞭な声で、短い言葉で、言い換えをしない！  
（同時に複数の指示や発問をしないことを原則に、長い説明等は一文を短く区切る）  
指示や説明・発問は、できるだけ板書（イラスト等で示す）しよう！

### Before

▲ 児童生徒が教科書を読んでいるときに、「太郎の気持ちが書かれている部分に線を引く、気持ちが大きく変わっているところに赤で丸をかいてください。」と指示をだす

### After

- 一端読みを止めさせて注目させ、「読み終わったら、2つのことをします。」
- ① 太郎の気持ちが書かれている部分に線を引く
  - ② 太郎の気持ちが大きく変わっているところに○をかく（板書する）

- ◇ 話の聞き方をルール化することも大切です。（全員が集中するまで、話をしない）

**M** 本時に「〇〇ができる（～がわかる＝～を説明できる）」が明確な『めあて』の提示

『めあて』を目に見える活動の表記にして、児童生徒と目指す姿を共有しよう！

※『めあて』とは、45(50)分の授業が終わったときに目指す児童生徒の姿（目標）です。学習課題や問題提示、発問とは区別します。

**Before**

- ▲ どうして「走れメロス」と題をつけたのだろうか（小学校国語）
- ▲ 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色を調べよう（中学校社会）

**After**

- タイトルに込められた作者の思いを説明できる（小学校国語）
- 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色を双方の違いや以前の生活との違いを示して説明できる（中学校社会）

- ◇ 『めあて』カードを使い、黄色チョーク等で枠囲みしましょう。
- ◇ 教師が一方向的に『めあて』を提示するのではなく、前時の振り返りや児童生徒の気づきやつまずきを生かして、児童生徒の「わくわく」が連続する『めあて』の設定へ導きましょう。

**A** 全員の「やってみよう」「なるほど」が生まれる“自力解決”と対話的で深い学びが生まれる“協働解決”の場の設定

見通しをもった“自力解決”にしよう！  
必要性・手段を明確にした“協働解決”にしよう！

※『見通し』とは、解決の方法や手順を自分なりにイメージすることです。  
※『必要性・手段』とは、何のためにペアやグループ活動をするのか、何について話し合ったり協力したりするのか、どのような方法・役割で活動したりするのかということです。

**Before**

- ▲ 見通しをもてない生徒がいるのに、自力解決の時間を長くとり、個別指導でヒントを出す（自力解決にならない）
- ▲ 意見が出ないから（時間に余裕があるから）、班で話し合う時間を設ける

**After**

- 互いの気づきや解決の方針を出し合い、解決方法や手順を可視化して自力解決の時間を設ける
- ペアやグループで活動する意義を確認し、活動の方法や役割、話し合いの視点を可視化して活動させる

- ◇ 協働解決では、どんな手順で何をすればよいかのかを、簡潔に（箇条書きで）板書しましょう。
- ◇ 自力解決、協働解決の過程での気づきや交わされた意見をノートやシートに記録させましょう。児童生徒が自分の成長を実感し、主体的に課題を解決する力を身につけることができます。



**R** 定着を図る時間の確保、小テストの実施

「わかった」や「できた」と感じる時間を確保しよう！

※ 定着を図る時間とは、A（アクティブ）で活動したことを身につける時間です。

**Before**

- ▲ 学級全体で問題を解決し、授業（単元）のまとめをして終わる
- ▲ 単元テストや定期テストだけで、定着状況を評価する

**After**

- 授業（単元）の中で、学んだ知識や技能を一人一人が活用する時間を設ける
- 授業の中で、小テストをしたり、応用問題や生活場面で活用する問題に挑戦する機会をつくる

- ◇ 「めあて」の達成状況を45(50)分の中で評価し、実態に応じた練習等を行います。
- ◇ 知識・技能をドリル型の練習で習得させることと併せて、身につけた知識・技能を表現したり活用したりする機会を設けることで定着がさらに図れます。

【ノート指導の例】

学習期日	友だちの考え
問題	
めあて	まとめ
自分の考え	練習
	ふりかえり

- ◎学年のはじめに、ノートの使い方の指導をし、机間指導で確認しましょう。
- ◎単元や学期ごとに、ノートを集めて点検し、つまずきの早期発見に努めましょう
- ◎ノートをチェックしたら、児童生徒の意欲を高めるコメントやスタンプ等をつけましょう。

【板書の例】 小学5年生算数

6月21日 教科書p50

**問題**

赤色のリボンは、3mで330円、青色のリボンは、2.5mで300円です。1mの長さのリボンを買うとき、どちらのリボンを買いますか。

選ぶ理由 ねだん、色、生地、リボンのはば

↓

1mの長さなら、どっちが安い？  
(代金)÷(長さ)=(1mのねだん)

赤色 330÷3 = 110  
青色 300÷2.5 = ?

**何を使う**    **どう考える**

- 数直線    わる数を整数にしたら
- 図    計算できる
- 計算、式    →どうやって？

-1mのねだんを求める  
-わられる数もわる数も10倍

**めあて**

300÷2.5の計算のしかたを説明できる

**私たちの考え**

<1cmのねだんを求める考え>

2.5mを250cmと考えます。  
300÷250=1.2  
1cmのねだんは、1.2円  
1mのねだんは、1.2×100=120  
120円です。

<わられる数もわる数も10倍する考え>

300 ÷ 2.5 = 120  
↓×10   ↓×10    正しい    25) 120  
3000 ÷ 25 = 120    50  
                              50  
                                      0

**答え**

1mのねだんは、赤は110円、青は120円  
安い方を買うとしたら、赤色のリボンを買う。

**ぎもん**    なぜ、両方を10倍するの？

リボンの長さが10倍になると、代金も10倍になるけど、1mのねだんは変わらないから

**まとめ**

小数でわる計算のしかた  
わる数が整数になるように、  
わられる数もわる数も10倍(100倍)して、わり算する。

◎ペアで、計算の仕方を説明しよう

<たしかめ問題>

教科書p51の①

- ①とけた人は、先生に見せて説明する。
- ②合格した人は、ワークp30の□をする
- ③終わった人は、答え合わせをする。  
まちがえたところは、もう一度やり直す

**T** 何を学んだかを明らかにする『まとめ』と、自分の学びを振り返る『振り返り』の実施

「問い方」を工夫して、『まとめ』『振り返り』をしよう！

※『まとめ』とは、何を学んだか、「わかったこと」「できたこと」を明らかにする活動です。  
『めあて』との整合性を図り、教科書の用語を使って児童生徒の言葉でまとめましょう。

※『振り返り』とは、自分の学びを客観的に評価する活動です。  
「何を振り返るのか」を明確にします。

Before

『まとめ』

▲ 教師が学習内容をまとめる

T：金属は温めたら膨らむことが分かったね。しっかり覚えよう。

『振り返り』

▲ 児童生徒が感想を述べるだけになっている

T：今日の学習の感想を教えてください。

C：今日の実験は班で協力してできました。楽しかったです。

▲ 活動が多すぎて時間が足らなくなり、『まとめ・振り返り』ができない

T：自分でまとめてください。

T：続きは次の時間にします。

After

『まとめ』

○ 「わかったこと」「できたこと」を尋ねる

T：今日の学習で、どんなことがわかりましたか。

C：金属は温めたら膨らむことがわかりました。

『振り返り』

◎ 解決方法・手順

T：今日の実験方法で良かったところは何ですか。

C：温める前と後の金属棒の長さを比べることで変化に気づきました。

◎ 参考になった友だちの意見

T：なるほど、と思った友だちの意見はありましたか。

C：〇〇さんの意見を聞いて、□□に気づきました。

◎ 疑問・学習意欲

T：もっと調べてみたいと思ったことはありますか

C：電車の線路は、夏に熱くなって伸びても、どうして大丈夫なのかなと思いました。

◇ 『振り返り』を促す問い方の例

【解決方法・手順】今日の学習で「こうすればもっと良かった」と思うことは何ですか

【疑問・学習意欲】今日の学習で疑問に思ったことはありませんか

学習の前と後で自分の考えが何か変わりましたか

◇ 『まとめ・振り返り』の内容を2～3分程度でペアで伝え合うことも効果的です。

特に、『めあて』が“～を説明できる”の場合は、説明できるかを確認する為に必要です。

◇ 『まとめ・振り返り』をするためには、共通のノートである黒板（ホワイトボード）で45（50）分の学習の流れを振り返ることができるよう、計画された板書が必要です。